



(財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

核実験全面禁止問題の現状

川崎 昭一郎

（経過）
ビキニ、死の灰とのたたかい、三年間のモラトリアムを経て、一九六三年、大気中・宇宙空間・水中での核実験を禁止する部分的核実験禁止条約が米英ソ間で成立した。その後一〇年たって一九七四年に、地下核実験を一五〇キロトン（広島原爆は一五キロトン）以下に制限する条約が米ソ間で調印された。また、これと不可分のものとして一九七六年に平和目的核実験条約も調印された。後者は、地下で平和目的の核実験を行なう場合、単独の爆発については一五〇キロトン以下に、群発式に行なうときは総爆発力を一五〇〇キロトン以下に制限することを定めた。注目すべきは、群発式で総爆発力が一五〇キロトンを超える場合には、相手国の監視員が必要な測定装置を持参して現場に立会うことができるようにした点である。従来の条約ではすべて、検証（相手に条約違反がないかどうかのチェック）は、現地調査なしに、すなわち、相手国に人員や装置を持込まないで自国内の技術的手段だけで行な

うとされていた。なお、七四年、七六年の両条約はまだ批准されていない。一九七七年から地下実験を含むすべての核実験を禁止する条約のための交渉が米英ソ間で再開されたが、一九八〇年に中断されたまま今日にいたっている。レーガン大統領は、検証手段が不備であること、また、国の安全保障を核抑止力によっている以上実験の継続は必要であることを理由に、包括的核実験禁止は遠い将来の目標であるとした。ソ連は一九八五年八月六日よりモラトリアム（地下核実験の一時停止を行なっており、アメリカに同調を求めている。八五年一月一日から八月六日までソ連が行なった実験回数は七回、八四年および八三年の同じ期間についてはそれぞれ一回、一三回であるので、今回のモラトリアムは、ソ連が自分に都合に、一連の地下核実験計画を終えた直後の時期をえらんでやったというような措置でないことだけはたしかなようだ。

（検証技術は）
地下核実験の検出は地震計の世界的ネットワークを用いて高い精度で行なうことができる。地下核爆発でも地震と同じように地震波が生ずる。地震波には地球の内部をつたわる実体波（P波・S波）と地球表面にそってつたわる表面波（レリー波・ラブ波）とがあるが、地震と地下核爆発では実体波（P波の中の周期一秒の成分）の振幅が同じ場合（実体波できめたマグニチュードが同じ場合）でも、表面波（レリー波の中の周期二〇秒の成分）の振幅が、地震の場合は核爆発の場合より数倍大きいので、両者ははっきりと識別できる。また、核爆発では爆心部が小さいので、実体波の中に、地震ではみられない高周波成分（周期約一〇〇分の一秒）を含んでいるので、地震計を高周波領域にセットしておけば、核爆発だけが観測されるようにできる。ただ、この場合に、高周波の地震波は遠くまでつたわらないので地震計を相手領土内に持込まなくてはならない。そこでアメリカで考え出されたのが、外から手を加えられないようにできていく地震計パックを相手領土内の地下一〇〇メートルにうめこみ、データが改ざんされないように、地震計からの地震波データは二四時間中流しっぱなしにし「地震や核爆発がなくても大気や海水による雑音地震（二面につづく）

「テレビ東京 東京レポート」モニターレポートより

「証言 第五福竜丸」(八月六日放映)を見て

終戦記念日に、この第五福竜丸という貴重な、忘れてはならない歴史を企画されたことは、実に素晴らしいことだと感じました。数年前に第五福竜丸を観に行ったことがありますが、そのときの胸をしめつけられるような思いを画面をみながら反芻しております。当時の乗組員であった大石又七さんという方が登場されたのに驚きました。当事者だけにインタビューにこたえる発言には、ずっしりとした重みがあります。それは、まさに、歴史の証言、といえます。広島や長崎の約一〇〇〇倍という規模の水爆だそう、それを不幸にも体験してしまったという悲劇……。

（三四歳・主婦）
この貴重で、訴えかけの強い資料が、もっと人目にふれやすい場所にあつたならば、そしてもっと、たびたびPRされる機会があつてほしいと思いました。

（三七歳・公務員）

番組の全編、シヨックの連続でした。観終ったとき、とても重い

観て欲しいと思った。

で死んだということは、つい最近のソ連の原子力発電所の事故を思い返すが、それ以前の戦争の兵器としての広島、長崎の爆弾の恐ろしさをまざまざとよみがえさせる。十五分という限られた番組だが、福竜丸保存のための市民運動の到達に当時の気持や経過を聞いてはしかった。また、同じ死の灰をかぶったビキニ環礁の様子とか、福竜丸の乗組員が、雪のように灰が降った、のにその中で何時間も作業をしたのは、何故かなど知りた

（四六歳・主婦）

「証言 第五福竜丸」は好評により年末の総集編で、その後の第五福竜丸も追加撮影され、再放映されることになりました。

新春たごあげ大会のお知らせ

- 一九八七年一月十五日 (成人の日)
夢の島公園グラウンド(11時)
第五福竜丸展示館集合
第五福竜丸平和協会主催
東京都後援

参加自由、みなさんもぜひどうぞ

編集後記

「健康相談会」で、診察をうけている被災者にフラッシュが向けられるとたまらない。西村先生はそう語った。「録音はとらない。本人が許可しないことは絶対活字にしない」これまでの聞きとり調査で、山下先生はこの「鉄則」を守り通した。高知での追跡調査のきっかけもなつた室戸水産高校生の遺族は、調査から一年かかり、氏名の公表を承諾してくれたという。ビキニ事件を、人の問題としてとらえ直そうと、高知の先生方ですすめられている追跡調査は、常に被災者の立場に立つことに徹している。調査団が少しずつ広がりを見せているのは、こうした先生方の情熱、真摯な態度に共鳴する人が増えていることによる。高知の先生方から教えられることは多い(は)。

100万人参観者運動を
86年11月来館者数 21,653名
通算1カ月平均来館者数 5,572名
当月1日平均来館者数 833名
通算来館者数 701,972名



談笑の中での聞きとりは長時間にわたった(11月24日、室戸での健康相談会)。

### 高知から……

朝方の小雨も上がった室戸は、十一月下旬にしては暖かった。室戸商工会館前に立てられた「ビキニ水爆実験被災漁船員・健康相談

#### 今年度第二回展示替完了

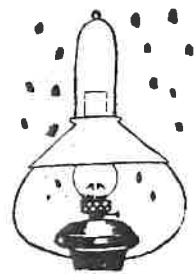
#### 特集展示「ビキニ水爆実験被災船」

ずっしり重い茶封筒が届いた。朝日新聞長崎支局の松本記者からだ。中には特大の模造紙に書かれた、元弥彦丸乗組員の追跡調査の一覧表が入っていた。四八人全乗

「の看板が頼もしく見える。会場となる一室では、即席の診察室が作られ、白衣の看護婦さんたちが準備に余念がない。今回は大生三人も初参加。徳島からも、長年被爆者の治療にあたってこられた医師も応援に来るなど、十人の医療スタッフが、受診者、を待ち受けていた。

十一月二四日、室戸での健康相談会高知県ビキニ水爆被災調査団主催)は、今春土佐清水でのビキニ事件以後全国でも初めての健康相談会の直後から計画されていた。追跡調査のきっかけが幡多地区(宿毛・中村・土佐清水など)の高校生和ゼミナールの活動の中で生まれたということもあり、室戸でのとりくみが遅れていた。しかし、関係者が多くいると思われる室戸で、是非実現させたいとこれ

まで準備を重ねてきた。この八月には、幡多地区と室戸の高校生が学習交流会を開き、高校生による聞きとり調査も行なっている。健康相談会には、元第二幸成丸船長(四月十五日築地入港。漁具より四、〇〇〇カウント検出)の崎山秀雄さん(八人が訪れた。崎山さんは「元同僚の中は最近、自分より若いのに病死するケースが相次いだため、不安を感じて相談に来た」と語っていた。崎山さんは前日の交流会にも参加、率先して体験談を語るなど、調査団の人たちに大きな励ましを与えている。高知で調査団が結成され一年が過ぎた。来年二月七、八日には、これまでの調査を踏えて、同じ室戸で全国シンポジウムが計画されている。(詳細は五、六面の新聞報道をご覧下さい。)



波は常時存在する)、そのデータ・フローを静止衛星にリレーしようというものである。この装置はすでにアメリカとカナダで試用されている。前記七七年からの交渉では、このような無人装置を相手国に何個まで据えつけることを認め合うかという数についても、かなり煮詰められていた。

ある。時々刻々のケーブルの長さには電氣的パルスがケーブルを往復する時間で測る。アメリカは現在の検証方法には不満であり、検証方法が改善されたうえで、七四年・七六年の両条約に批准したい、それがアメリカのとりうるつぎのステップだとしている。

昨年一月二八日、アメリカはSDI用のX線レーザー開発のための地下核実験を行なった。一般に、新しい核弾頭や核爆発装置の開発のために最低二〇回の核実験は必要だとされている。

(いまアメリカは) 本年八月、レーガン大統領は地震計による検証にはなお不確実な点が残るとして、核爆発の大きさを直接測る新しい方法をソ連に提出した。それは、核爆発装置が底に収められている井戸型穴のそばに平行にケーブルをタテに埋めこみ、核爆発の衝撃波でケーブルが下端から順次破壊され短くなっていくタイミングを調べて、核爆発の大きさをきめようというもので



第五福電丸平和協会第74回理事会の概況報告

日時 十二月八日(月)午後〇時半  
二時半 場所 神田・学士会館  
出席理事 三宅泰雄、川崎昭一郎、斎藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇、本多喜美、檜山義夫(八委任状)

議事 1. 前回理事会議事録承認 2. 会務報告 3. 昭和61年度上半期会計報告 4. 活動計画 1) 賛助会員の拡大(2) 一月十五日、第15回新春たこあげ大会を開催(3) 三・一ビキニ事件記念集会を二月二十八日夜午後六時から協会主催で開催(会場未定)。科学者数人の講演を予定。

5. 福電丸だよりの充実。展示館を中心に福電丸にかんする生き生きとしたニュースが広く収録されるように努め、巻頭の寄稿、連載企画(二月より三宅会長)など充実させる。編集委を定期に開く。付録は不定期刊としビキニ事件に関するものにしぼる。6. 理事会の強化

前回の決定をふまえ、定員拡充の都の認可にそい、次回理事会で一名の理事拡充をおこなう。

●昭和61年度評議員会  
日時 87年一月十九日(月)  
午後〇時半  
会場 神田・学士会館303号室

三、五〇〇余名の見学者に船も身を小さくして……

大きな船がデンと鎮座する展示館も、三千人を越える子どもたちに囲まれると身を小さくする感じ。十一月二十八日、三十二校、三五四五名、十二月二日にも二十七校三、三四四名の子どもたちの来館がつづいて、十二月五日までで通算七〇万八千名余となった。国際平和年の一年、毎日毎日、船は原水爆禁止、核戦争をおこすなど訴えつづけたわけだ。

十一月には、多彩な人びとが訪れ、ベトナム原子力委員会の代表も、フィリピン、の反核平和運動家も、カルフォルニアの太平洋問題研究の大学教授も、ソ連の学術・友好代表団も子どもたちにまじって見学。紀州若者塾研修団の青年男女、沖繩平和祈念資料館の代表、埼玉盲学校専門部の青年の来館も印象的だった。

大阪市立大学の学生が、ビキニ事件と市民生活―大阪の被災船―のテーマで卒論を書く研究と資料集めに来館したのにもびっくり。

空調設備の取り替えで十二月中旬まで暖房のない展示館だが、気分には春の感があった。